



《今月の目標》



学校給食週間・学校給食の歴史を知ろう

**1月24日～30日は
全国学校給食週間**



学校給食の 始まりは？

学校給食は、明治22年（1889年）、山形県の忠愛小学校で、お弁当を持ってくることができない子どもたちへ無償で昼食を出したのが、始まりとされています。

献立は、おにぎり、焼き魚、漬物だったそうです。その後、全国に広まりましたが、第二次世界大戦で、日本中が食料不足になったため、給食は中止になり、多くの子どもたちが栄養失調になりました。

戦後、「ララ（アジア救済団体）」から、脱脂粉乳が寄贈され、東京、神奈川、千葉で昭和21年12月24日に学校給食が再び始まり、この日が「給食記念日」となりました。

現在は、この日が冬休みに入るため、1カ月後の1月24日から1週間が「全国学校給食週間」となっています。

学校給食の 役割は？



現在の学校給食は、ただのお昼ごはんの代わりではなく、栄養バランスのとれた食事、成長期にある子どもたちの健やかな成長を支え、食に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。

また、食生活が自然の恩恵や食に関わる多くの人の活動の上に成り立っていることなどを理解させ、感謝の心を育むことができます。



1月17日は、「おむすびの日」です。1995年の阪神淡路大震災の時に、ボランティアが、炊き出しのご飯を「おむすび」にして多くの被災者に届けたことから、2000年にごはんを食べよう国民運動推進協議会により制定されました。人と人との心を結ぶ「おむすびの日」です。

宮野小学校の給食室では、子どもたちと心を結ぶことができるよう、声かけなどを行っています。3学期になって子どもたちの給食の運搬が素早くできるようになっているので、私たちが、子どもたちに声をかける時間もとても短くなっています。少しさみしい気もしますが、子どもたちの成長を感じています。

暦の上での春、「立春」までもう少しです。料理で季節を感じながら、おいしくて温かい給食をしっかりと食べて、3学期も元気いっぱい過ごしてほしいと思います。



感謝の心でいた давайтеましよう

食べることは生きることです。人は食べないと生きていけません。食べ物が私たちの体をつくり、動かし、調子を整えてくれます。また、その食べ物の生産者さんや料理を作ってくれる人たちがいるおかげで、食べることができています。

食べ物や食事に関わる人々に、感謝していただきます。

食べ物を大切にする



米や魚、野菜など動植物の命をいただいています。その命を粗末にしないよう、感謝し、大切にいただきます。

食事のあいさつをきちんとする



食事のあいさつ「いただきます」「ごちそうさま」には、食べ物の命や料理に関わる人々への、感謝の気持ちがこめられています。

食事のマナーを守る



食事のマナーを守って食べることは、食べ物や料理を作ってくれた人の思いを大切にすることにもつながり、感謝の気持ちが伝わります。

後片付けをきちんとする



食器に食べ残しがないようにする。食器をていねいに下げるなど、後片付けをきちんとすることで、食事を準備してくれた人たちへ感謝の気持ちが伝わります。

1月の給食献立予定には、昔の給食を体験する献立の日（27日）があります。今は、身の回りに様々な食べ物があるので、食べることに感謝する気持ちが薄れがちです。いつの時代でも、私たちは、食べ物や食べ物に関わる人々に思いをよせて食事をする時間を持ち続けたいですね。

